

# 都市再生整備計画(第3回変更)

ほうしゃくじえきしゅうへん  
宝積寺駅周辺地区

とちぎ たかねざわまち  
栃木県 高根沢町

平成21年2月



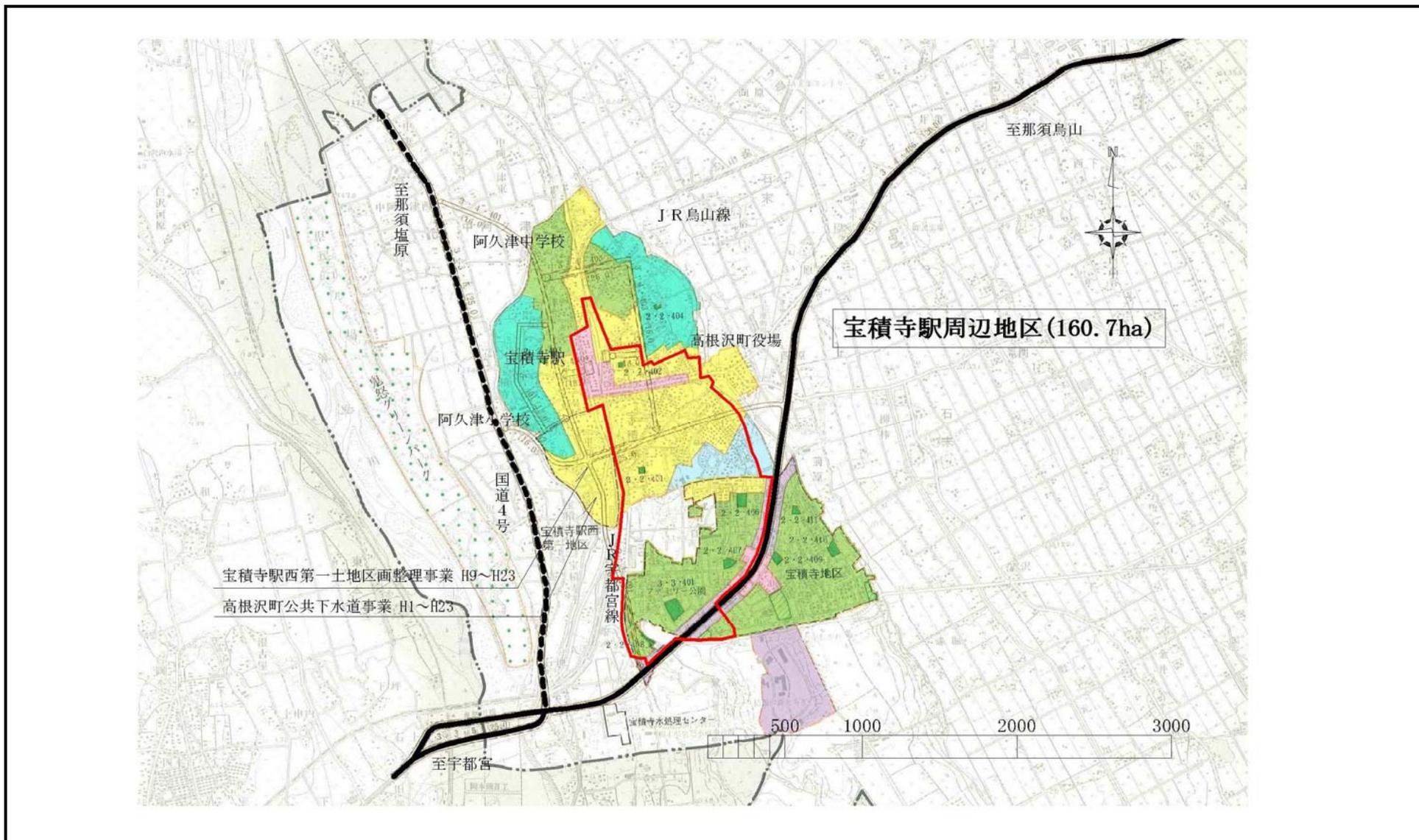
## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業活力を創出する環境づくり 人の「ふれあい」や「人情味」を大切に魅力ある商業核、商店街の整備を図る。</li> </ul>	地域交流センター(基幹事業)、観光交流センター(基幹事業)、ちよっ蔵広場整備(基幹事業)、商業支援施設(関連事業/町)、高根沢町商工会館建設(関連事業/商工会)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や情報が交流する環境づくり 人が商店街を回遊し、楽しみながら情報が交流する施設の設備と「人の和」の醸成を図る。</li> </ul>	駅前緑地、駅西多目的広場整備(基幹事業)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代が安心して快適な暮らしができる居住環境づくり 田園情趣を生かしたゆとりと緑のある住宅地整備と、人々が協力し安全で安心して暮らせる居住環境の創出を図る。</li> </ul>	道路整備(基幹事業)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセシビリティの高い環境づくり アクセスしやすくトータルにバリアフリー化された利便性の都市基盤施設整備改善と機能の充実を図る。</li> </ul>	宝積寺駅東西連絡通路(基幹事業) 宝積寺駅橋上駅舎整備事業(提案事業) 高質空間形成施設(基幹事業)
<p><b>その他</b></p> <p>○まちづくり活動支援事業 高根沢町中心市街地活性化事業計画に則し、中心市街地における商業等の活性化のための具体的な計画を策定するために必要な調査研究を行い、関係者のコンセンサスの形成を図ることを目的に、平成13年度に高根沢町商工会に『高根沢まちづくり委員会』が組織された。</p> <p>事業の内容</p> <p>(1) 中心市街地の商業等活性化のための勉強会、講習会の開催 ・まちづくりの先導的な役割を担う、中心市街地活性化の総合的なマネジメントを行うTMOの設立のため、地元事業者等関係者から構成される委員会等を開催し、事業者や住民の意見を汲み上げ、地元のコンセンサスの形成を図る。</p> <p>(2) 中心市街地の商業等活性化のための先進地視察研修会の開催 ・中心市街地活性化事業に取り組んでいる先進地視察を行うことにより、その手法を学び事業の推進を図る。</p> <p>(3) 中心市街地の商業の活性化のための具体的な計画策定に必要な調査研究 ・消費者ニーズ、商業施設の立地動向調査、整備計画シミュレーション等調査研究を行う。</p> <p>(4) 宝積寺東の石蔵を利用したイベントの開催 中心市街地活性化には、宝積寺駅東の整備が最大の事業として位置付けられており、委員会の最大目的は活性化の研究にある。駅東地区開発整備の重要性と必要性を認識し、これを町民や地域住民に訴えていくことが重要と考え、『蔵』のアピールと開発整備の理解を得るための行動としてイベントを開催することとなった。事業者はもとより、多くの町民の参加を得て開催できたことに意義があり、少しずつ町民等にも浸透するところとなったため、今後も継続的に実施することが、町民とコミュニケーションを図るためにも必要である。</p> <p>○地域創造支援事業 宝積寺駅舎整備事業(橋上駅舎整備) ・駅及び駅の関連施設は利用者にとっての安全性、利便性、機能性、快適性の確保が望まれる。このため駅を利用する高齢者や障害者、子供等に配慮した安全で美しく、そしてあたたかく、やさしさのある駅とし、バリアフリーな施設整備により、宝積寺駅東西連絡通路の整備と併せ、駅舎は橋上化とする。</p>	



都市再生整備計画の区域(変更後)

宝積寺駅周辺地区(栃木県高根沢町)	面積 160.7 ha	区域 高根沢町大字宝積寺、光陽台一丁目、光陽台二丁目、光陽台三丁目、光陽台四丁目、光陽台五丁目、宝石台五丁目の各一部
-------------------	----------------	---



## 宝積寺駅周辺地区(栃木県高根沢町) 整備方針概要図

目標	中心市街地活性化と再生シンボル・先導役として「ふれあいと賑わいの交流拠点」の形成を目指す。	代表的な指標	空き地の商業系利用率(ha)	0 (H14年度) →	1.05 (H20年度)
			駅利用率(人/年)	750,000 (H14年度) →	900,000 (H20年度)
			イベント回数(回)	3 (H14年度) →	12 (H20年度)

